平成 28 年東日本豪雨の資料レスキュー～岩手県遠野市の事例

遠野市文化課（遠野市立図書館博物館）副主幹　前川さおり

１．東日本豪雨（平成 28 年台風 10 号）とは

平成 28 年（2016）８/30 に岩手県に上陸した台風 10 号は三陸沿岸を中心に死者 24 人、行方不明者１名という甚大な被害となり、遠野市でも道路や河川、農作物等の被害額が 55 億６千万円。

被災翌日の様子

２　遠野みらい創りカレッジ資料室の被災

遠野みらい創りカレッジ（旧土淵中学校）１階資料室には、遠野市立図書館所蔵の貴重図書を収蔵。主な資料は、柳田国男の弟子で日本昔話研究の第一人者・関敬吾が収集した昔話関連図書、江戸時代から近代の教科書群、民俗学参考図書などである。

台風 10 号の影響で近くの足洗川が氾濫し、資料室の床上約 40cm が浸水、収蔵していた図書約約 2500 冊が水損した。

３　水損資料の避難と冷凍保管

台風の翌８/31 に遠野市立図書館・博物館職員が水損資料を回収。館内冷凍施設がなく、自力での乾燥処理は困難と判断。職員個人の Facebook と学芸員ネットワークいわてメーリングリストで救援を募った。

（１）　冷凍保管の申し出

８/31 に岩手県立博物館（289 冊）と９/1 に陸前高田市立博物館（183 冊）から電話で冷凍保管の申し出があり、９/１にナンバリングと写真撮影、９/２に公用車で同時移送。

（２）　独立行政法人国立文化財機構　文化財防災ネットワーク推進室の支援申出

Facebook を見た国立科学博物館の真鍋真氏が上記推進室へ通報し、同推進室長からカビを発生させないレスキュー実証実験として文化財防災ネットワーク推進事業の一環で奈良文化財研究所関連冷凍庫で保管し、真空凍結乾燥処置を進める旨の申し出があり、1650 冊を冷凍宅配便で送付。行きの輸送費は国が負担。帰りは遠野市負担で合意。

埋蔵文化財分室の外での発送流れ作業

（３）奈良移送作業の支援

移送作業の写真撮影や梱包協力について SNS で支援を募ったところ、県内博物館３人、歴史資料ネット、ワーク副代表、山形文化遺産防災ネットワーク事務、局長、国立歴史民俗博物館民俗研究部准教授及び特任助教がボランティアで参加した。９/５に奈良発送を完了した。

４　東北大学災害科学国際研究所の乾燥処置

陸前高田市立博物館保管分は、文化財防災ネットワーク推進事業の一環として東北大学災害科学国際研究所での真空凍結乾燥機による処置を行った。陸前高田市から仙台市まで公用車で移送。ここで真空凍結乾燥処置についてレクチャーを受け、知見を得ることができた。

５　遠野市における和本教科書のスクウェルチ法乾燥処置について

（１）奈文研保管分のうち和本教科書 749 冊は冷凍したまま遠野市に戻し、スクウェルチ法のよる乾燥処置を行うこととした。残り分は奈文研で真空凍結乾燥を行い、遠野市職員が梱包作業をして引き取った。

（２）水損レスキュー講習会の宣伝

「スクウェルチ法」は習熟が容易で、東日本大震災の際に遠野市立博物館職員が大槌町立図書館被災資料で行った経験がある。災害に備え、資料救出活動を迅速に行う人材育成の講習会として、岩手県教育委員会、岩手県図書館協会、岩手県博物館等連絡協議会の共催を依頼し、学芸員ネットワークいわて研修会（11/7）、全国史料ネットワーク研究集会 IN 愛媛（12/18）などで広く参加を呼びかけた。

（３）　講習会の実施と参加者

2017 年 1/31、2/7、2/18、2/21 の合計４回、のべ 115 人の県内外の図書館、博物館、文化財担当職員、史料ネットワーク、市民ボランティアが参加した。

（４）　キッチンペーパーの支援

遠野市と交流都市である愛知県大府市交流の杜図書館が募金活動を展開し、６万円分のキッチンペーパーを贈ってくれた。

（５）３月にかけてキッチンペーパーを職員で抜き、カビの発生がないことを確認して綴り直さず経過を観察している。

６　岩手県立博物館での乾燥処置とレスキュー体験バスツアーの実施

（１）岩手県立博物館が、平成 28 年度～令和元年度まで４年に分けて真空凍結乾燥を実施

（２）同時に遠野市民や三陸沿岸被災地の市民を対象にした水損レスキュー体験バスツアーを年１～２回実施。

（３）市民が、岩手県立博物館の東日本大震災被災文化財修復施設や被災文化財企画展の見学の後、乾燥した遠野市水損資料のドライクリーニング、試験紙による PH 測定、ブックキーパー法による大量脱酸素処理を行った。

（４）令和２年（2020）２/12 に公用車で 289 冊すべての図書を引き取った。